

令和5年度 特別選抜（社会人） 小論文
出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

資料1は内閣府「令和4年版高齢社会白書」より高齢化の推移と将来推計についてのグラフ、資料2は総務省「2021年通信利用動向調査」より年齢階層別インターネット利用の目的・用途（複数回答）のグラフ、資料3は金融広報中央委員会「暮らし塾きんゆう塾」vol.50に掲載された若宮正子さんのインタビュー記事の一部抜粋を用いた。

少子高齢化による生産年齢人口の減少を補うためには社会のスマート化や高齢者の生産性向上が必要である。一方で、高齢者のインターネット利用は他の年齢階層に比べあまり進んでいない部分もある。しかしながら資料3のインタビューにあるように高齢者になっても情報科学の活用によって生産性を上げることができるような例もある。

本問は2つの図と1つのインタビュー記事から情報を読み取りこれからの高齢者は情報技術とどう関わることが良いかと問いかけ、図から情報を読み取る分析力、長文の読解力、異なる複数の情報を組み合わせて課題を発見する論理的思考力、見解をまとめ表現する文章構成力をはかるものである。

【解答の傾向】

資料1からは、高齢化率の増加や生産年齢人口の減少についての読み取りがよくできていた。また、これに伴って年少者の納税負担が増大するという課題を指摘した解答が多くみられた。一方で、「生産性の向上が必要である」などの具体的な解決の方策について主張を展開できた解答はほぼみられなかった。

資料2からの情報の読み取りにはミスが少なく、高齢者の通信利用率が全体と比して低いことが多く挙げられていた。そのうえで、資料3の例を引き合いに出しながら、高齢者も情報技術を利用すべきであるとする論旨の解答が非常に多かった。高齢者の情報技術利用率を向上させる具体例として、「講習会などを開催する」というものが多くみられた。

本設問では、全体を通して、少子高齢化が進む社会の課題を踏まえたうえで、高齢者の情報科学との関わり方を論じていくことが求められる。しかし、納税負担の増大などの課題には触れられているものの、それを解決するための方策へと論が展開されている解答はほぼみられなかった。ほとんどの場合、高齢者の通信利用率が低いことを問題視したうえで、利用率向上の必要性について述べるばかりで、少子高齢化問題と結びつけて論じられることはほぼなかった。なかには、情報技術の発展が必要であると述べるに留まり、本設問の問いである「高齢者の情報科学との関わり方」について十分に言及できていない解答も散見された。

この他の気づきとして、本設問が求める文字数の上限1500字を十分に満たすことのできていない解答も散見された。なかには、かなりの余白を残して一度文章としては完結してしまったため、余白を埋めるために既出の内容を繰り返すような解答もみられた。